

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

久しぶりに国道18号を走り碓氷峠を過ぎ軽井沢へ、小諸を左に見て千曲川を渡り「勘六山房」へ……。八重原台地の中央に小高い丘があり、細い坂を上ると山房があります。

水上勉先生が最晩年の十二年間を過ごした場所です。先生にしばらくぶりにご挨拶をして展示作品を選び始めました。

お嬢様の路子さんと陶芸家の角りわ子さんは的確に多くの作品の中から先生の代表作を選んで下さるので一作一作に感動している私の肩を押してくれるように作品選びは終わりました。

今回の作品選びは、路子さんのお力添えで来年のカレンダーを作るための作品選びも兼ねていましたので至福の時間でした。

一年間を水上先生の竹紙に描いた四季折々の草花や風景や野菜などをコンパクトなカレンダーで楽しめる……。素敵な一年間を過ごせそうです。(詳細は裏面をご覧ください。)

角りわ子さんの陶器は、水上先生の著書「精進百選」で百点を越す大鉢、小皿などが素朴な料理の器として使われています。

「彼女の灰釉をつかった食器や、花器を見ると、信濃で千年も眠っていた土の温かみを感じる。土は寄り添えば、人の心をぬくめるのである。そういう世界を、角りわ子はひとり追求している。」と

水上先生も書いています。今年は、米子高島屋、新宿小田急百貨店、京都ヒルゲートなど幅広い活動をしています。

竹紙制作をしている小山久美子さんは、青森県つがる市生まれ。水上先生の教えを受け、竹紙を漉きはじめ現在に至っています。

勘六山の竹一〇〇パーセントを使用し、長年の試行錯誤の末に生みだされた表情ある美しい質感は「書」や「絵画」、その他、多面的に使われ定評があります。是非ご覧下さい。

今回は、「故郷」(集英社文庫)も置いてあります。「故郷」は、昭和六十二年から二、三年間にわたって全国地方新聞十二紙に連載した作品です。変わりゆく現代の地方農漁村の若狭、丹後を舞台に、故郷を訪れた主人公夫婦が旅行する筋書も、このような変容ぶりを眺め直してみたかったからである……と書いています。この小説の連載が始った頃、若狭に原子力発電所は十一基。この物語はあくまで、空想の所産であるからと「あとがき」にあります。福島原発事故が起き、寒い風は現実を吹いてしまいました。(武藤)

ノイエス朝日(展覧会)のご案内

没後10年

水上勉 勘六山房展

〈企画〉

角りわ子(陶芸) 小山久美子(竹紙)

会期 八月三十日(土)～九月七日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*初日の午後二時過ぎに作家在廊しています。

藤森カツジ展

〈企画〉

会期 九月十三日(土)～二十一日(日)

午前十時～午後五時三十分(最終日は午後五時)

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*作家は会期中は毎日午後一時より在廊しています。

伊勢型紙 四技法

引き彫・道具彫・突き彫・錐彫

江戸小紋展 藍田正雄

〈企画〉

会期 九月二十七日(土)～十月五日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

古来より伊勢の地(現在の鈴鹿市)で作られている「伊勢型紙」。その四技法は数々の道具を使い、高度な技術を駆使して細かくも壮大な世界を彫り続ける人々と江戸小紋を染め上げる人々で成り立っています。

「藍田正雄」の江戸小紋の世界をお楽しみ下さい。

*ご案内は次回にお送り致します。

軽井沢散策

中軽井沢駅から千ヶ滝温泉方面に少し車を走らせ、左に少し入った所に「セゾン現代美術館」があります。

九月二十八日(日)まで「堤清二ノ辻井喬才マージュ展」が開催されています。経営者としての堤清二とペンネーム辻井喬として創作活動をしてきた「二つの行為(経営と詩を作ること)」は本来矛盾するべきものではなく、それが矛盾して感じられるところに、時代の様相があること。パンフレットにもあるように、静かな緑豊かな地にたたずむ美術館の中にその魂が宿っているように感じられました。

昨年十一月二十五日に亡くなった堤清二ノ辻井喬が愛した収蔵作品、身近に置いていた作品、著書、原稿などが展示されています。入館受付でいただいた「堤清二ノ辻井喬さん」という小冊子には、中西夏之や篠原有司男、横尾忠則などの画家や美術家、彫刻家の思い出の言葉が綴られています。夏の一日を涼しい高原の風に吹かれて「堤清二ノ辻井喬」の残した数々の言葉や作品に触れてみてはいかがでしょうか。

木曜は休館日です。ただし八月は無休だそうです。

開館時間は午前十時～午後六時。入館料は一般一〇〇〇円。

伊藤三枝さん個展

一月五日(月)～十八日(日)



「茜雲」 伊藤三枝